ちょい悪が出来る空間構想

智に働けば（勉強ばかりすれば）角が立つ（仲間外れになる）
情に（ゲームの世界に）棹（さお）差せば流される（脱落する）
意地を通せば（反抗すれば）窮屈だ
兎角（とかく）に人の世は住みにくい

「ちょい悪」のできる区間構想概要

外国ではウクライナを初めあちこちで戦争をしています。貧困や人権迫害などもしばしば報道されています。そんな世界と比べると日本は安定しています。これは我々の勤勉性や安定を築いてきた先人の努力があったと思います。そこに大きな感謝とありがたみを感じるところです。

しかし、この安定は、より安全より安心と言う方向に向かい、何か問題が起きると、「何々はやってはならない」というダメの規則がだんだんと増えてきているように思います。ズバリ！あまりにも *「やってはいけないこと」* が多過ぎるのではないでしょうか？

子どもの例を挙げます。学校では「廊下で走ってはいけません」、「授業中は私語はいけません」、「メイクはしてはいけません」、「派手な靴下はいけません」、「いじめはいけません」、「友だちの嫌がることをしてはいけません」、「ゲームのし過ぎはいけません」などなど。それは、子どもたちの不良行為や不慮の事故を未然に防ぐために、大人は「よい子はそんなことはしてはいけません」としっかりと教育します。その結果、子どもの世界は *安全安心で秩序有る世界* になっています。これは素晴らしいことです。が、子どもにとっては、*窮屈な世の中* でもあると心配しています。

子ども達は好奇心旺盛 です。いろいろなことに興味や関心を示し、触ったり、壊してみたり、行動したくなるのが本能です。身体が成長過程にある子ども達は、走ったり跳んだり、身体を動かしたくなる衝動は本能です。あるいは、思うようにならないときに何かに八つ当たりするのも本能です。　子ども達は「それが当たり前の世の中だ」と教えられているからか、大半の子ども達は今の環境に満足しているように見えます。でも、心の奥の本能はいくら教育しても変りません。安全のため秩序のため必要と分っていても *本能的を抑制している生活は窮屈* なのではないかと心配です。

たまには、本能に赴くまま、気持ちを発散できる場がないだろうか？と思います。これは子どもの世界だけでなく、大人の世界にもそんな場は必要だと思います。

そこで考えたのが、 *「ちょい悪」のできる空間* です。ちょい悪とは、他人に迷惑になったり、ちょっと危険だったりする行動です。たとえば、モノを壊す、散らかす、落書きをする、モノを投げつけるなどの行動です。学校では禁止され、やれば、先生に怒られるだけでなく、クラスメートから白い目で見られるような行動です。普段は出来ない行動です。しかし、そんなことが出来る場所、すなわちある程度の広さと自然がある庭つきの家を提供するのです。

「ちょい悪」のできる村空間、ちょっとした悪さをするところです。日頃、「それをやってはダメ」とばかり言われている子が「やってみなさい」と自由になったときの気持ちを満喫できるでしょう。ただし、やるだけでなく、後片付けもやらせます。そうすることで、ちょい悪をあえてやることが *子ども達の大事な成長* につながります。

具体的な「ちょい悪」空間で出来る事

この空間で出来ること

1. カラーボールがっせん
   - 汚れても良い服で上着は白シャツ着用
   - 好きな色を選び、カラーボールにその色のインクをしみこませます（村からボールは一人１０個貸します）
     - ✓ カラーボールは柔らかく、投げやすい重さ
     - ✓ 外側にインクを吸い込む布が巻いてある
     - ✓ 投げたボールは拾って再使用する（時々インクの補充要）
   - かっせん敷地に入ったら、友だちを探し、上半身をめがけてボールを投げます
   - 自分も誰かに狙われているので、逃げたり隠れたりします
   - 終わって何発当てたか、何発当てられたかシャツで確認できます

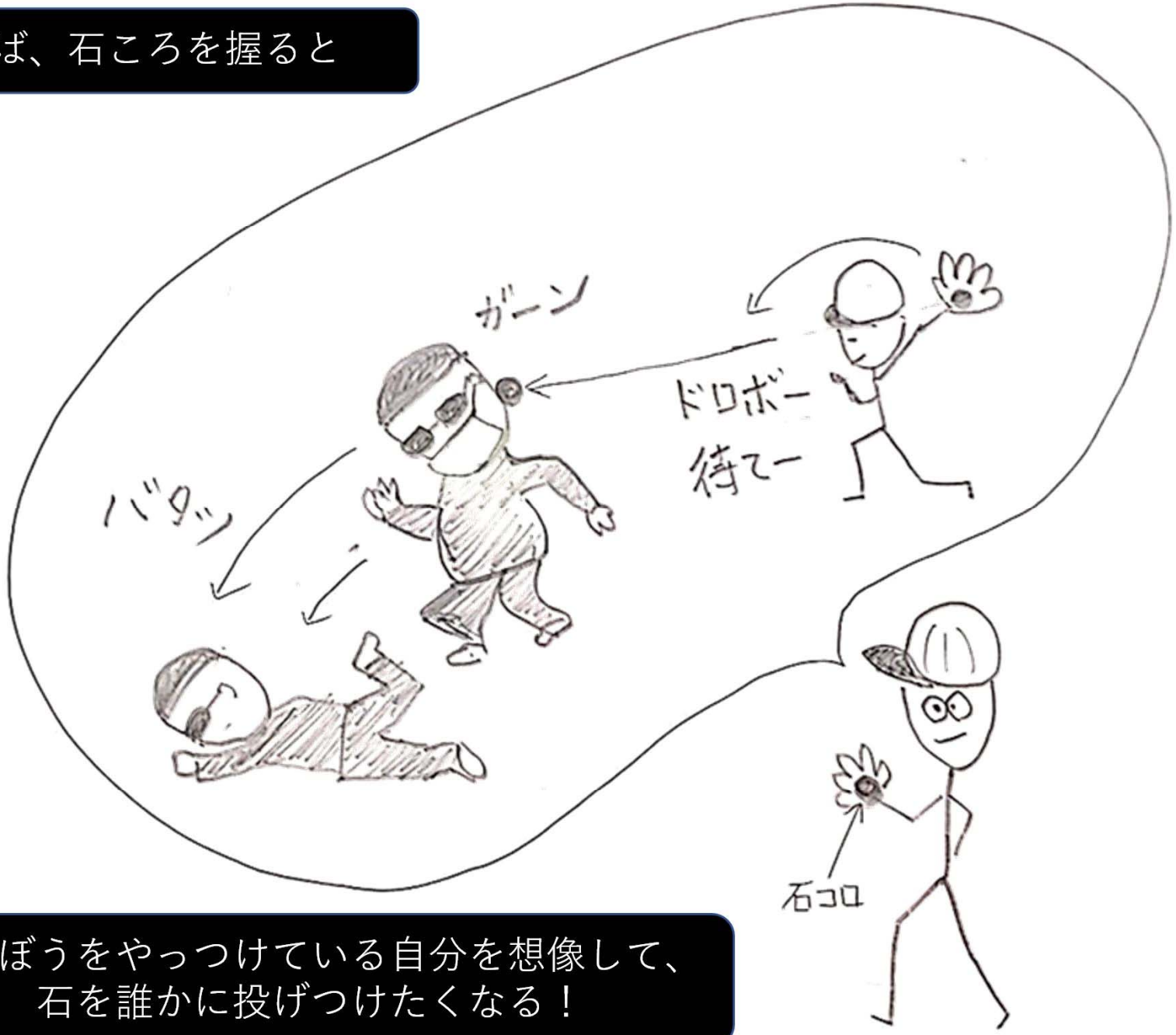
2. ガシャーンと叫び
   - 家庭で不要になった食器や瓶を持ってきます
   - それを、専用の部屋の壁に力一杯投げつけて割ります
   - 投げつけるときに、「ター」と大声で雄叫びとパフォーマンスもつけます
   - 割れ方から力強さと、雄叫びとパフォーマンスから発散の度合いを１～５点で示します
   - 投げたら、その都度、破片はチリトリとホウキで片付けます

3. メチャクチャ散らかし
   - 綺麗に整理された本棚のある４畳半ほどの部屋に行きます
   - 本棚にはイミテーションの本が１００くらい整然とおいてあります（これらは村の据え置きです）
   - この本のイミテーションを床におもいっきり散らかします
   - 散らかす最中は、「８０点とるざー」などの希望や、「宿題多過ぎだー」などの不満を大声で叫び続けます
   - 終わったら、散らかし度合いや、叫びの強さで発散の度合いを１～５点で示します
   - 最後に、散らかした本は元に整理し直します

4. 自由“ちょい悪”
   - 申告制のちょい悪です、危険や迷惑の度合いを考慮して村が許可します
   - 棒で丸太を叩くとか、水掛がっせんなど自由なアイデアがあると思います
   - 気分転換に有効なちょい悪はレギュラーちょい悪に採用もあります

どんな子でも、「やっつけたい」という衝動が心の中でもたげてくるときがある　③

例えば、石ころを握ると



どろぼうをやっつけている自分を想像して、
石を誰かに投げつけたくなる！

どんな子でも、「いたずら」や「ちょいワル」が心の中でもたげてくるときがある　②

例えば、ガラス瓶や陶器のカップがあると

投げつけて割りたくなる！

どんな子でも、「いたずら」や「ちょいワル」が心の中でもたげてくるときがある　①

例えば、本棚に整然と本が並んでいるのを見ると

本を投げ散らしたくなる！

普段の生活では、「散らかしたらダメ」、「モノを壊したらダメ」、
「モノを人に投げつけたらダメ」とか、「ダメ、ダメ」が多い世の中
だと思いませんか？
「〇〇はダメ」という大人のしつけが、子どもの暮らしを安全、
安心、そして快適なものにしてくれます。

それは、それで素晴らしい事です。

でも、子どもには旺盛な好奇心やいたずら心があります。それが
「ダメ、ダメ」と抑制されたら、子どもも欲求不満になるでしょう。

目の前にあるモノに対して、何かしたいと思う心。それをやってみること
で、
子どもは何かに気がつきます
それが成長につながり、情緒の安定につながります。

たまには、好奇心やいたずら心による行動は、ちょっと迷惑だったり
ちょっと危ないとか、マイナス面がありますが、そんな行動が出来る場は

子どもの気分転換だけでなく、健全な成長にもつながると思います。